

## 第32回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

1. 日時 平成27年8月4日(火) 14:15～16:30

2. 開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室 他

3. 出席者 環境監視委員

学識経験者: 金谷委員長

住民代表: 中島(茂)委員、中邨委員、渡邊委員、  
東委員、中島(仁)委員

事業者: 乾委員、深川委員

滋賀県: 谷口委員

甲賀市: 吉村委員、中島委員、矢田委員

公社: 中村委員

事務局: 公益財団法人滋賀県環境事業公社

〔 中村副理事長、木村所長、内藤副所長  
奥野次長、居川副主幹 〕



4. 議事概要

(1). あいさつ(公社 副理事長)

(2). 活動内容報告

1) 水質調査結果について.....資料1

2) 硫化水素自主測定結果について.....資料2

3) 搬入実績について.....資料3

4) その他(放射線の自主測定結果について、環境影響評価事後調査について、現地視察等)・・・資料4

### 【主な意見および質疑】

(水質検査結果について)

・浸出水原水の BOD、COD が上昇していることについて、原因は何か？

→ 第 2 期工事が終了したことにより埋立面積が増えたことと、平成 26 年度以降搬入量が増加したことにより、雨水が多くの廃棄物を通過していくことが原因ではないかと考えています。

・原水の BOD、COD はこのまま上昇を続けるのか？

→ 今後も上昇が続くのか、現状程度にとどまるのかは今後の推移を見ていく必要があると考えていますが、水処理施設を設置するにあたっての計画原水濃度と比べるとまだ低い値であり、水処理については問題ありません。

・水質のデータについて、施設開設時、地下水などについては開設前からのデータを示していただきたい。

・M-2(施設最下流)でヒ素が高いことについて、浸出水が漏れているとは考えられないが、それ以外にどのような理由が考えられるか？

→ 滋賀県においては、古琵琶湖層にヒ素が含まれていることから自然由来で検出されることがよくあります。M-2 については、そういう水脈の地下水である可能性があります。

- ・処理水の COD が、浸出水原水の COD 上昇に伴い上がってきているが、何か対応は考えているのか？  
→現在、生物処理＋砂ろ過という処理を行っていますが、COD の除去が十分できない場合に備えて、活性炭処理を行うよう準備しています。

#### (硫化水素自主測定結果について)

- ・以前から何度も申し上げているが、安全に関しては十分すぎるくらい十分に対応していただきたい。
  - ・測定値が高い地点はもちろんであるが、ゼロのところも突然 1000ppm を超えることがあることから、ガス抜き管についてはすべてが危険であるということを十分周知徹底されたい。
- 作業員への安全教育やガス抜き管位置の明示など徹底していきます。

#### (搬入実績について)

- ・搬入量が急増していることに対して、次期工事や、さらに先の長期的な構想、対応を考えなくてはならないのではないのか？  
→平成 25 年度までの搬入量が少なかったこともあり、平成 26 年度時点ではほぼ計画通りの埋立量となっておりますが、このままのペースでは平成 35 年までもたないこととなります。そのため、今年度は大手の搬入事業者を中心に搬入抑制の依頼や、数値目標で抑制を依頼しています。また、料金についても見直しを行う必要があると考えていますが、現在当センターに廃棄物を搬入するという流れが出来上がっているため、すぐにはこの流れは変わらないとも考えられます。
- ・現在の搬入量(70,000t 程度/年)が、中期経営計画(33,000～35,000t/年)の倍くらいとなっていることから、搬入チェックが不十分になるのではないのかという懸念が生じる。特に、搬入量の大半を占めている混合廃棄物はチェックが困難だと思われるが、この点に関して対応はできているのか？  
→今年度も昨年度並みに多量の搬入が予想されたことから、臨時職員を 1 名増やし、職員による埋立地での展開検査を増やしています。搬入業者も、また作業員にも緊張感を持ってもらっているのではないかと考えています。また、混合廃棄物については、廃棄物の処理を行う上で一定量発生するのはやむを得ない部分もありますが、占める割合が高いという点については、3R の推進や中間処理(焼却、破碎等)の徹底を依頼し、さらに価格面でも差をつけて進めていく必要があると考えています。
- ・混合廃棄物の中に特別管理産業廃棄物が混入することはないのか？  
→現在のチェック体制、契約時の確認によって特管物が入ることはないと考えております。

#### (その他について)

- ・放射線測定については、特に問題がないという確認として継続して行っていただきたい。
- ・環境影響評価事後調査(動植物)について、底生動物の種類、個体数が増加しているのは富栄養化しているためではないのか？  
→富栄養化すると生物種が変わることから、富栄養化しているとは考えにくいです。
- ・環境影響評価事後調査(動植物)の、工事前から工事中の調査はなぜ今まで続けてきて、今後どうするのか？  
→工事前から工事中の調査は、主に工事に伴う濁水等の影響を見るために実施し、供用後は必要ない調査とされてきましたが、平成 20 年の供用開始時にもうしばらく様子を見るということになっていました。今般、これまでの調査で大きな変化は見られなかったことから、今後は供用中を対象とした調査だけ継続します。

・埋立地上部から現在の埋立状況を視察。



◎次回、環境監視委員会は2月ごろに開催予定。